

日本のポップ・カルチャーを象徴するバンド
「ラルク アン シエル」 社会的テキストによる解釈

ヒズキア

0242011



マラナタキリスト教大学

文学部

日本文学科

2007

序論

世界大戦に負けた後、日本は「ポップ・カルチャー」という西洋の現代文化を受け入れ始める。例えばポップ・ミュージック（大衆音楽）である。現代の日本人にはいろいろなジャンルのポップ・ミュージックが広がり、そのほとんどは西洋国のポップ・ミュージックに影響されている。一つの例は90年代に生まれた「ラルク アン シエル」というビジュアル・ロックのバンドである。しかし90年代の中間にラルク アン シエルのジャンルは「オルタネティブ・ロック」に変わってる。

ラルク アン シエルの作品が数百本売れ、ラルク アン シエルは若者の人気アイドルになってる。多くのアーティストの中のラルク アン シエルの流行はポップ・カルチャーの社会的テキストで解釈することができる。本論では、この社会的テキストを解釈するため、ハンス・ジョージ・ガダマーの解釈学を使う。社会的テキストには美術品や人の望みや人の表現などがある。

本論

ラルク アン シエルは、ヴォーカル h y d e、ギター k e n、ベース t e t s u、ドラム s a k u r a の四人のメンバーがいる。最初のデビューでは彼らは女っぽいスタイルでビジュアル・ロックを演奏していた。メジャー・レーベルに入ったが、ラルク アン シエルの聞き安いの音楽

が外のロック・バンドに比べ、聴音の注意を引き、人気のあるバンドといった。

しかし「オルタネティブ」と「グランジ」というミュージックが広がって、西洋のロック・ミュージックの流行はだんだん弱まってきた。そのためラルク アン シエルは化粧とビジュアル・ロックを維持せず、人気のオルタネティブを取り入れたのである。その結果、彼らの作品が数百万本売れたのである。ドラム y u k i h i r o が s a k u r a に代わった後、ラルク アン シエルの音楽における創造力はますます咲いて、有名な流行歌を作り、現代の日本人とアジアの人々に聞かれている。

ラルク アン シエルの人気は資本家としてのメジャー・レーベルから切り離すことができない。メジャー・レーベルは大々的に彼らのビデオ、広告をするのである。マルクス主義理論によれば、ポップ・カルチャー産業は高潔な文化を知らない大衆を引き抱えるために作り出しているものであるという。

ラルク アン シエルは、商品としての音楽と美的な価値のある音楽を混合することに成功したのである。作品を作る際、ラルク アン シエルは美的感覚、音楽性としてのファッションナブルな要素を取り入れるため、視聴者にとって社会テキストを引き起こすほか、彼らの存在を確固たるものにしたのである。例を挙げると「ウィンター・フォール」という曲があるが、軽い音楽であるにも関わらず、これには、アレンジがすばらしく、

意味深い詩的な要素が含まれており、そのため、視聴者は、さまざまな解釈を為すことができるのである。

結論

ラルク アン シエルは、ポップ・ミュージック界において、作曲にすばらしい創造性を取り入れるため、その存在を維持することができる。作詩、アレンジ、ファッション性を取り入れることにより、その優秀性が見られるのである。しかし、彼らの成功は単に彼らの努力にだけ為されたものではない。メジャー・レーベルも、その成功に一役買っているのである。